

アンゼラスの鐘

全国に先がけて自主上映

富山医師医学者の会



アニメ映画「アンゼラスの鐘」から(製作委員会)提供

九月二十五日、アニメ映画「アンゼラスの鐘」の自主上映が富山県民会館で開かれた。主催は保険医協会と核兵器廃絶をめざす富山医師医学者の会も参加する「アンゼラスの鐘上映実行委員会」となりました。参加者は午前午後合わせ

生、金井英子先生の主催者代表挨拶の後、富山県被爆者協議会事務局長の田島正雄氏が被爆体験をお話された。午後は司会を身島明美先生、挨拶を小熊清史先生が行ない、被爆体験は水野耕子氏が自らの体験を語った。水野氏は、十四歳のとき長崎で被爆し、原爆の悲惨さと憲法九条を守っていくことの大切さを訴えた。

感想より

●一言では言い表せない原爆の恐ろしさ、人間の助け合い、何とも言えない切ない気持ち胸がいっぱいになりました。一人でも多くの人たちに見て欲しい。(女性・六十代)
●原爆のことがとてもわかりやすかったです。原爆にありましたが、ただただ怖いもありません。(女性・中学生)

追悼のごと



一九七七年八月の「被爆の実相とその後遺・被爆者の実情に関する国際シンポジウム」で発表する秋月辰一郎氏

爆心地から一、四キロの距離にあった浦上第一病院で患者の治療中に被爆したヒバクシャであり、医師であった秋月辰一郎先生は、さる十月二十日、約十

三年の長い闘病生活の後、静かに息をひきとられた。享年八十九歳であった。先生は一九四五年八月九日原爆投下の直後から被爆した多くの患者ヒバクシャ達を昼夜兼行で懸命に治療していたが、「ピンセットを動かして手がつかない」

故秋月辰一郎先生の御遺志をひきついで

武居 洋

に石のようになんか動かない状況の中で、「破壊して破いて治療せよ」とヒバクシャの表情を世界に向けて訴える絶好のチャンスと大きな期待を抱いたのであった。一九七七年七月末、各専門分野の国際調査団が長崎を訪れ、国際調査にあたった。

そのうちの一日はヒバクシャの検診調査にあてられた。長崎市内の広い体育館には、多数のヒバクシャ・市民が集まっていた。その観察の中で、検診の対象として選ばれた被爆者が一人一人国際調査団医師の前に出て検診を受けたのであった。診察のわきに座った秋月先生は一見平穏の様子

核戦争に反対する医師の会

反核医師の会 ニュース

第31号 2005年11月30日

核戦争に反対する医師の会事務局 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 電話 03-3275-1121 FAX 03-3275-1122 E-mail: nishikawa@doctor.or.jp http://www.nishikawa.or.jp

十月二十二日、二十三日の二日間、愛知県名古屋市の中京大学名古屋キャンパスにおいて、「核戦争に反対し、核兵器廃絶を求める医師・医学者のつどいIN愛知」が開催された。



全国から三百十三名が参加し熱心な討論がおこなわれた。



「医師としての被爆体験を語る」肥田舜太郎先生

中央相談所理事長による「医師としての被爆体験を語る」と題しての講演と四つのテーマでの分科会がおこなわれた(テーマと報告者は三面に掲載)。肥田氏は、六十三年前に広島で原爆投下に遭遇したときを起點に被爆者を診療してきた自らの被爆医療の体験にもふれながら、被爆者によりそい、放射線被曝について学び、核の問題に明るい医者になってほしいと呼びかけた。

原爆症の分科会では、韓国から参加した二人の医師がイラクの現状と健康被害について報告した。

なくせ核兵器、なくすな9条

反核医師・医学者のつどいIN愛知に313人

今年で十六回目を迎えた「つどい」には、全国と愛知から三百十三名と過去二番目となる参加者で、核廃絶についての活発な討論がおこなわれた。

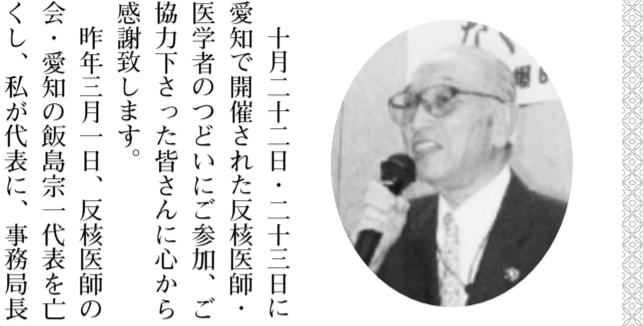
浅井氏は、「いま問題なのは核兵器に対する関心の低下と、被爆者の高齢化で体験が継承されなくなる」と「原爆体験を共通の遺産にすべきだ」と訴え、核兵器廃絶運動と平和憲法を守る運動を結合させる意義について語った。本氏は「日本が世

に中川武夫氏が選出されました。幸運なのは、中川氏が全国の会の常任世話人であったことです。私たちは、八一年の第一回IPPNW創立以来、いち早く「反核医師の会」を設立し、代表に飯島先生が就任。そして、浅野晴義先生が将来を見越して、当時保団連役員であった私を事務局長に推薦しました。頼りない私ですが、学生時代、演劇青年

であったことで、広く演劇や音楽関係の知人があったので、加藤友康先生(名大混声合唱団・マジシャン)も参加。市民との結びつきが多かったこと、私も幸いました。特に第七回に続いて今回も、中川先生のおかげで中京大学のキャンパスを利用することができました。

今年、被爆60周年という節目で名古屋は日本の真中で交通の便もよく、北海道から沖縄まで幅広く同志の先生がご参加いただいたことに私からも深く感謝申し上げます。残念なことではつどい前日にモデルとなった長崎の秋月先生がなくなられたことを報告し、参加者で黙祷をささげました。今回は人数の面でも内容の面でも大成功であったと思います。全国の皆さんに心からのお礼を申し上げます。

【後援】 中日新聞社、朝日新聞社、愛知県原水爆被災者の会(愛友会)、被爆者支援ネットワーク、反核日本の音楽家たち・名古屋、核兵器廃絶・平和を守る名古屋舞台人の集い



十月二十二日・二十三日に愛知で開催された反核医師・医学者のつどいにご参加、ご協力下さった皆さんに心から感謝致します。 昨年三月一日、反核医師の会・愛知の飯島宗一代表を亡くし、私が代表に、事務局長

第16回反核医師・医学者のつどいIN愛知を終えて 実行委員長 堀場英也

先生をはじめ、日本における優秀な演者を講師としてご招待できたこと。二人の韓国人医師による報告と医学生若くは多くの人たちの参加を得た

こと。実行委員会にも夜遅くまで参加してもらいました。つどいに先立ちアニメ映画「アンゼラスの鐘」を東海で初めて上映しました。残念なことではつどい前日にモデルとなった長崎の秋月先生がなくなられたことを報告し、参加者で黙祷をささげました。今回は人数の面でも内容の面でも大成功であったと思います。全国の皆さんに心からのお礼を申し上げます。

【祝電・メッセージ】 (順不同、敬称略) 広島市長・秋葉忠利 参議院議員・小池晃 日本原水爆被災者団体協議会 原水爆禁止日本協議会

在韓被爆者の実態調査を報告

現地実行委員会の招きで韓国人医師のチョン・ヒョンチュン氏、キム・チンクク氏の2名が参加し、「在韓被爆者」の実態調査について報告した。調査は国家人権委員会の承認を受け、2004年、韓国原爆被害者協会の登録者2235人を対象に実施され、過半数の1256人の有効回答を得た。9割の1189人が広島で、68人が長崎で被爆。そのうち0~19歳で

書評

漫画「ANZEASU」 (西山進 著)

長崎の被爆者で漫画家の著者が、自らの戦時生活と被爆体験を「二度と戦争はしてならない」「あの日のこと」を書き残して、次の世代に伝えたい」との想いで、漫画を添えた自分史を出版した。

待合室に、ぜひ一冊を!

絵解き物語は、著者の小学校入学時の教科書の軍国少年育成から始まり、日中戦争、太平洋戦争という流れの中で、高小卒業後、家の事情で絵を諦め、働きながら勉強できる長崎の三菱造船所に就職して被爆。戦争のさなか、著者と周りに人びとの暮らし、勝った、勝ったの虚偽報道の裏での戦争の実態などを、リアルに分か



定価 1800円 クリエイティブ21刊

「新たな決意で」医師・医学者の社会的責務を果たしていこう

常任世話人会が基調報告

「つどい」の一日目、シンポジウムのおと全体集会がおこなわれ、常任世話人会を代表して塩川哲男常任世話人（北海道）が基調報告をおこなった。

塩川常任世話人は、報告の冒頭、核兵器の廃絶をめざし、会のさらなる発展のために、「激動する情勢の特徴をつかみ、この一年間

核兵器と平和をめぐる国際情勢

活動を振り返り、今後の活動方針について活発に議論し、行動に移そう」とよびかけた。

小泉内閣の対米追従姿勢と憲法九条の危機

まず核兵器と平和をめぐる国際情勢について述べ、今年五月のニューヨークでの核兵器不拡散条約（NPT）再検討会議では、米国政府による妨害もあつたが、一方で大きな前進もあつたことを紹介。それは、NPT第六条の核軍縮義務を核兵器保有国に履行させるための「第六条フォーラム」を発足させること、平和市長会議が国連に核兵器禁止条約を協議するための特別委員会の設置を求めたことだと指摘した。

続いて日本政府の対米追従姿勢について報告。米国・ブッシュ政権に世界で最も忠誠を誓っているのが日本の小泉首相であり、日本政府の核兵器政策、イラクへの自衛隊派遣などについて言及した。また、小泉首相の靖国神社への参拝問題については、保守・反動勢力の「戦争する国」へのたくらみの象徴的行為であること、「新しい歴史教科書をつくる会」の動きや教育基本法改定の策動も、国の未来を担う子どもたちへの攻撃として見逃せない問題だと指摘した。

唯一の被爆国であり、平和憲法と非核三原則をもつ日本に対して、世界とアジア諸国が求めているのは、紛争の平和的解決と核兵器の廃絶に固有の役割を発揮することだと強調した。

また、先の総選挙の結果にもふれ、日米支配層による改憲の「本丸」は、憲法第九条、特に第二項の改廃だと指摘。憲法改憲の動きに断固反対し、「九条の会」や「九条の会・医療者の会」に結集しながら、世界に誇れる第九条を何としても守り抜こうとよびかけた。

次に、「つどい」から「医師の会」への組織化と当面の課題について報告。現在、全国四十七都道府県中、二十八の都道府県に反核医師の会があること、沖縄、茨城など最近結成された県がある一方で、活動の停滞、会員の減少傾向などの実態があり、未結成の県への援助と合わせた対策が急務であることを強調した。

また、全国の「反核医師の会」はこの一年間で、団体会員二十四、個人会員二百五十五名で会員数が増加していることが紹介された。さらに、学生や若手医師に私たちの運動を引き継いでもらうことは、反核・平和運動にとって死活の課題だとして、意識的な取り組みをよびかけた。

最後に、第二次世界大戦終結から六十年経つたいま、人類には「力の論理」を克服することが求められている。メインテーマ「なくせ核兵器、なくすな九条」被爆六十周年を節目に、新たな決意で前進を」の呼びかけにこたえて、被爆者や平和を求める諸団体と手を携えながら、文字通り「新たな決意で」医師・医学者の社会的責務を果たしていこうとよびかけて報告を締めくくった。



初日のシンポジウム「戦争・核の恐怖から抜け出す平和への道―日本の果たすべき役割は?―」

「核戦争に反対する医師の会」PANW」の活動に参加する私たちは、終戦・被爆六十一年間、第16回「つどい」を名古屋で開催し、核戦争を防止し、核兵器廃絶を求める活動を前進させようとした。決意を固めました。

日本国民は、二千万のアジア諸国民、三千万の日本国民の命を奪った第二次世界大戦からの教訓を、加害国の立場からも引き出しました。もう二度と戦争はしないという国民の決意を、日本国憲法第九条「戦争放棄」で高らかにうたわれました。「武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久これを放棄する」「前項の目的を達成するため、陸海空軍その他の戦力はこれを保持しない。国の交戦権は、これを認めない」と国際的に

公約したのです。国際平和にとつて、先駆的な平和憲法九条は六十年間、外国に行き、武力で人を殺さなかったという誇りを生み出しています。過半数を優に超える国民の意思とはうらはらに、国会では「改憲論者」が多数を占めています。自民党新憲法起草委員会

は、十月中に草案を提出す予定です。アメリカの一国世界支配に追随し、アメリカの戦争に参加し、戦争をする国に変えようとする力はその勢いを増しています。日本の知性を代表する有識者から出された「九条の会」アピールにこたえ、一年余で全国に三千二百を超える「九条の会」が結成されています。

「九条の会」は、今日まで四回、ノベル平和賞にノミネートされています。今、原爆症認定制度の抜本的転換、被爆者行状の改善、核兵器廃絶への世論の高揚を掲げ、全国で原爆症認定集団訴訟を取り組んでいます。日常的に被爆者医療に携わる私たちは、国内外の

被爆者への苦難に満ちた六十年の人生に思いを馳せ、この裁判の勝利に向け被爆者とともに全力で奮闘するものです。私たちはIPPNWに結集する世界の医師たちとともに、核兵器廃絶を求める諸組織と連携し活動しています。世界には今なお一万五千発の核弾頭がいつでも使用可能な状態で配置されています。「平和とは、どこかで進行している戦争を知らずにいるだけ、つかの間の優雅な無知だ」(ビンセント・ミラー、一九四〇年)とならないためにも、「平和への文化」の創造に奮闘しましょう。

二〇〇五年十月二十三日

「核戦争に反対する医師の会」PANW」の活動に参加する私たちは、終戦・被爆六十一年間、第16回「つどい」を名古屋で開催し、核戦争を防止し、核兵器廃絶を求める活動を前進させようとした。決意を固めました。

日本国民は、二千万のアジア諸国民、三千万の日本国民の命を奪った第二次世界大戦からの教訓を、加害国の立場からも引き出しました。もう二度と戦争はしないという国民の決意を、日本国憲法第九条「戦争放棄」で高らかにうたわれました。「武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久これを放棄する」「前項の目的を達成するため、陸海空軍その他の戦力はこれを保持しない。国の交戦権は、これを認めない」と国際的に

公約したのです。国際平和にとつて、先駆的な平和憲法九条は六十年間、外国に行き、武力で人を殺さなかったという誇りを生み出しています。過半数を優に超える国民の意思とはうらはらに、国会では「改憲論者」が多数を占めています。自民党新憲法起草委員会

は、十月中に草案を提出す予定です。アメリカの一国世界支配に追随し、アメリカの戦争に参加し、戦争をする国に変えようとする力はその勢いを増しています。日本の知性を代表する有識者から出された「九条の会」アピールにこたえ、一年余で全国に三千二百を超える「九条の会」が結成されています。

「九条の会」は、今日まで四回、ノベル平和賞にノミネートされています。今、原爆症認定制度の抜本的転換、被爆者行状の改善、核兵器廃絶への世論の高揚を掲げ、全国で原爆症認定集団訴訟を取り組んでいます。日常的に被爆者医療に携わる私たちは、国内外の

被爆者への苦難に満ちた六十年の人生に思いを馳せ、この裁判の勝利に向け被爆者とともに全力で奮闘するものです。私たちはIPPNWに結集する世界の医師たちとともに、核兵器廃絶を求める諸組織と連携し活動しています。世界には今なお一万五千発の核弾頭がいつでも使用可能な状態で配置されています。「平和とは、どこかで進行している戦争を知らずにいるだけ、つかの間の優雅な無知だ」(ビンセント・ミラー、一九四〇年)とならないためにも、「平和への文化」の創造に奮闘しましょう。

「九条の会」は、今日まで四回、ノベル平和賞にノミネートされています。今、原爆症認定制度の抜本的転換、被爆者行状の改善、核兵器廃絶への世論の高揚を掲げ、全国で原爆症認定集団訴訟を取り組んでいます。日常的に被爆者医療に携わる私たちは、国内外の

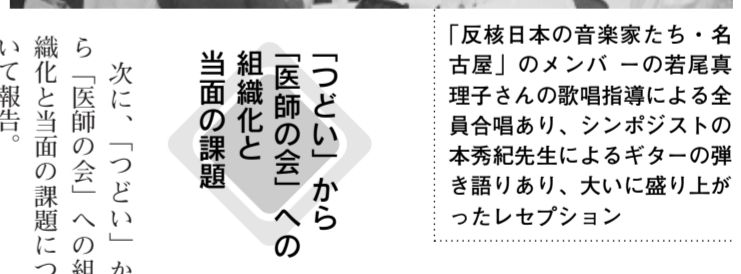
被爆者への苦難に満ちた六十年の人生に思いを馳せ、この裁判の勝利に向け被爆者とともに全力で奮闘するものです。私たちはIPPNWに結集する世界の医師たちとともに、核兵器廃絶を求める諸組織と連携し活動しています。世界には今なお一万五千発の核弾頭がいつでも使用可能な状態で配置されています。「平和とは、どこかで進行している戦争を知らずにいるだけ、つかの間の優雅な無知だ」(ビンセント・ミラー、一九四〇年)とならないためにも、「平和への文化」の創造に奮闘しましょう。

二〇〇五年十月二十三日

「九条の会」は、今日まで四回、ノベル平和賞にノミネートされています。今、原爆症認定制度の抜本的転換、被爆者行状の改善、核兵器廃絶への世論の高揚を掲げ、全国で原爆症認定集団訴訟を取り組んでいます。日常的に被爆者医療に携わる私たちは、国内外の

被爆者への苦難に満ちた六十年の人生に思いを馳せ、この裁判の勝利に向け被爆者とともに全力で奮闘するものです。私たちはIPPNWに結集する世界の医師たちとともに、核兵器廃絶を求める諸組織と連携し活動しています。世界には今なお一万五千発の核弾頭がいつでも使用可能な状態で配置されています。「平和とは、どこかで進行している戦争を知らずにいるだけ、つかの間の優雅な無知だ」(ビンセント・ミラー、一九四〇年)とならないためにも、「平和への文化」の創造に奮闘しましょう。

二〇〇五年十月二十三日



「反核日本の音楽家たち・名古屋」のメンバーの若尾真理子さんの歌唱指導による全員合唱あり、シンボジストの本秀紀先生によるギターの本秀紀先生による盛り上がったレセプション

「つどい」から「医師の会」への組織化と当面の課題

次に、「つどい」から「医師の会」への組織化と当面の課題について報告。現在、全国四十七都道府県中、二十八の都道府県に反核医師の会があること、沖縄、茨城など最近結成された県がある一方で、活動の停滞、会員の減少傾向などの実態があり、未結成の県への援助と合わせた対策が急務であることを強調した。

また、全国の「反核医師の会」はこの一年間で、団体会員二十四、個人会員二百五十五名で会員数が増加していることが紹介された。さらに、学生や若手医師に私たちの運動を引き継いでもらうことは、反核・平和運動にとって死活の課題だとして、意識的な取り組みをよびかけた。

最後に、第二次世界大戦終結から六十年経つたいま、人類には「力の論理」を克服することが求められている。メインテーマ「なくせ核兵器、なくすな九条」被爆六十周年を節目に、新たな決意で前進を」の呼びかけにこたえて、被爆者や平和を求める諸団体と手を携えながら、文字通り「新たな決意で」医師・医学者の社会的責務を果たしていこうとよびかけて報告を締めくくった。

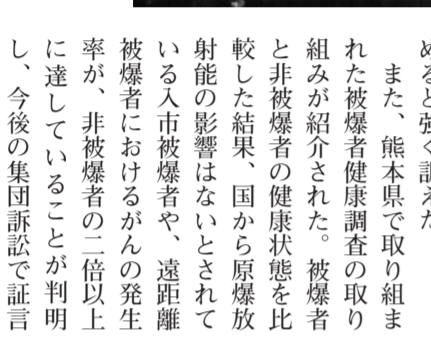


ロビーの書籍コーナー

分科会のテーマと報告者

- キム・チンクク氏 (韓国・大邱赤十字病院、神経内科医師)
- 第3分科会 「憲法と日本の戦争責任」 報告者：高橋 信氏 (名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊訴訟を支援する会代表) 池住義憲氏 (自衛隊イラク派兵差し止め訴訟の会代表) 飯室勝彦氏 (中京大学教授・中日新聞論説委員)
- 第4分科会 「劣化ウランの被害と劣化ウラン弾禁止運動」 報告者：嘉指信雄氏 (神戸大学教授・NODUヒロシマ・プロジェクト代表) 小野万里子氏 (弁護士、セイブ・イラクチルドレン・名古屋代表) カリド・イドリシ氏 (イラク・バスラ教育病院整形外科医) アッパース・アル・カナン氏 (イラク・バスラ教育病院放射線科医) 斉藤みち子氏 (愛知県保険医協会副理事長)
- 第1分科会 「核兵器廃絶をめざして～世代を超えて医師の役割を考える～」 報告者：新原昭治氏 (非核の政府を求める会核問題調査専門委員) 助言者：高草木博氏 (原水爆禁止日本協議会事務局長) <パネルディスカッション> 青木 淳氏 (ヘルスコープおおさか・コープ大阪病院・内科医師) 原 和人氏 (反核医師の会常任世話人)
- 第2分科会 「原爆症とは何か―集団訴訟勝利、被爆者の救済のために」 報告者：岡間 元氏 (全日本民連被ばく問題委員会委員長) 沢田昭二氏 (物理学者・名古屋大学名誉教授) 樽井直樹氏 (原爆症認定訴訟名古屋弁護団事務局長) チョン・ヒョンチュン氏 (韓国・翰林大学漢江聖心病院、環境医学医師)

日本原水爆被害者団体協議会(略称「被団協」)が主催する「核兵器も戦争もない世界を目指して」被爆60年10・18大会が、東京・九段会館で開催され、全国各地から被爆者・支援者ら八百人が参加した。反核医師の会からは児島徹代表世話人が参加した。集会では、ビデオ映像と証言による被爆者運動の六十年の歩みが紹介され、広島、長崎市長のメッセージに続き、民主党、公明党、共産党、社民党の各国会議員から、被爆者の要求実現、集団訴訟勝利への取り組みの決意が述べられた。各うたと合唱に続いて、各



北海道から鹿児島まで、集団訴訟の原告、弁護団、支援者が勢ぞろい。(中央は歌手の横井久美子さん)

九条の会・医療者の会 一周年の講演会



「九条の会」は、今日まで四回、ノベル平和賞にノミネートされています。今、原爆症認定制度の抜本的転換、被爆者行状の改善、核兵器廃絶への世論の高揚を掲げ、全国で原爆症認定集団訴訟を取り組んでいます。日常的に被爆者医療に携わる私たちは、国内外の

「九条の会」は、今日まで四回、ノベル平和賞にノミネートされています。今、原爆症認定制度の抜本的転換、被爆者行状の改善、核兵器廃絶への世論の高揚を掲げ、全国で原爆症認定集団訴訟を取り組んでいます。日常的に被爆者医療に携わる私たちは、国内外の

二〇〇五年十月二十三日